サービスラーニングを通して学んだこと

社会福祉学部保健福祉学科 2 年　鈴木　ひかり
活動先：NPO 法人　知多地域成年後見センター
クラス：松下　典子　先生

1．活動内容

成年後見制度の普及啓発のための看板作りをメインに活動した。その他に、申立の書類のセット作り、利用者さんの身上看護の記録をパソコンで打つことをさせていただいた。メインの看板づくりは、知多地域成年後見センターの仕事でもある大切な普及啓発のお手伝いとして行った。学生の立場から同じ学生に届く啓発看板を作りたいと思い、成年後見制度について知らない人も理解できるように、イラストなども取り入れて工夫した。

2．活動を通して

私のグループでは、少しでも多くの人に成年後見制度について理解してもらうこと、また私たち自身も現場で直接仕事に関わらせていただくことで、制度についての理解を深めることを目的とし活動を行った。そこで学んだことや感じたことなどが以下の 3 つである。

1 つ目に、1 年間を通して成年後見制度について学んできた。そのため以前よりも成年後見制度について詳しく知ることができた。そして、6 日間の活動やその後の振り返りでは、成年後見制度があまり知られていないことがわかった。成年後見制度の利用率は、利用の対象者である認知症の人の約 7%しかない。また、私の親や友達に成年後見制度を知っているか聞いても誰も知っている人はいなかった。これらから成年後見制度が予想以上に知られていないことがわかった。

2 つ目に、知多地域成年後見センターの職員数はとても少なく、常に忙しそうに感じた。職員数が少ないのは、実際の後見人の仕事の内容が十分理解されていないことが原因の 1 つとして考えられる。これは成年後見制度が知られていないことと同じである。そのため、成年後見制度というものを学びさらに広める必要があることを実感した。また、6 日間職員さんの仕事を見たり、少しお手伝いをさせていただいて、職員さんの 1 日の動きや知多地域成年後見センターが地域でどのような役割を担っているのか知ることができた。知多地域成年後見センターは身上看護と同時に必要な人には現場の見守りも行っている。そのため職員さんはほとんど外出している。このことから、実際は成年後見制度を必要としている人が多いことを知ることができた。

3 つ目に、上記の 2 つの点から成年後見制度を広める必要があると強く感じた。成年後見制度の利用対象者は判断能力が不十分な人であるため、高齢者だけでなく知的障害者等も含まれる。そのため、子どもから高齢者までが利用対象者となる。成年後見制度はそのような人たちを悪徳商法等から守るために必要とされている。そこで活動後に成年後見制度の普及啓発の方法として、簡単に制度について説明したチラシを作り広報や回覧板にはさむといったことなど幾つか考えた。また今後として、活動で作った看板を活用し成年後見制度を少しでも広め、普及啓発のお手伝いをしていきたい。

3．１年間の授業を通して

私は松下クラスであったことから、NPO の現場のリアルな側面を知ることができた。現在の日本での NPO の必要性や NPO は地域でどのような役割を担っているのか、具体的にどのような NPO が地域で求められているのかなどを 1 年間の授業を通して理解した。先生は特に「市民性」という言葉を強調していた。市民が動き、地域で協力することで、地域の様々なニーズを直に解決できる。このことから、今の日本で NPO は必要とされることがわかった。また、NPO は必要とされている割に、その存在や活動内容がなかなか知られていない。各 NPO 団体の存在や活動内容を知り、理解してもらうためには普及啓発が必要であり、その方法を考えていかなければならない。

また NPO には「つながり」がとても重要であることがわかった。NPO は、いくつもの NPO 法人や機関や施設との連携、地域住民とのつながりで成り立っている。実際に知多地域成年後見センターも、たくさんの機関や施設と連携している。また、知多半島にあるたくさんの NPO 団体は連携し合い情報交換等を行っている。このようなつながりから、NPO の活動が活性化し、より良いものになっていくと考えられる。

次に話し合いや事前学習、活動後の振り返りがとても大切であることを実感した。私は 2 人で 1 年間活動してきたが、話し合うことによって自分が考えてもいなかった意見を聞くことができた。また先生とも話し合うことによって違う意見を聞くことができた。そのため自分の視野が広がり、より多くの視点から物事を見られるように成長できたと思う。事前学習は活動先の NPO 法人について詳しく知ることが目的である。この時どれだけ調べるかによって活動中に得るものに差が出る。初めの頃私たちは成年後見センターがどのような活動をしているのか具体的に想像することができずとても苦戦した。不安な状態のまま活動に入ってしまったため、活動中に得るものが他のグループよりも少し薄いものになってしまったように感じた。しかし、その後に自分の活動中のことを客観的に振り返ることによって、何が課題であるか、何をするべきなのかを考えることができた。話し合いや事前学習、活動後の振り返りによって、課題を見つける力や広い視野を以前よりももつことができた。これらは今後の生活でも活かして生きたい。

知多地域成年後見センターは他の NPO 法人とは少し違う活動を行っているため、他のグループとは違うことを学ぶことができた。私の経験で大きなものになった。また、成年後見制度について詳しく知ることができた。成年後見制度の必要性を強く感じたため、普及啓発の力に少しでもなれるようにしていきたい。